



三重県明和町

平和と安寧の日々を祈る

第三十九回

斎王まつり

6月5日 (雨天の場合中止)

出発式・禊の儀 13:30~14:00
上園芝生広場会場

斎王群行 14:00~14:30
上園芝生広場会場→さいくう平安の社会場

社頭の儀 14:30~15:00
さいくう平安の社会場

ステージイベント 10:00~13:00
さいくう平安の社会場

ゲスト めい姫&ソルブラ&チェリーボンボン&Mebae
あつとえりか トーク and ライブ

フード&マルシェ 10:00~15:00
上園芝生広場会場・御館広場周辺

配役

齋王
さいおう



菅尾 夏希
(津市)



協力参加
皇學館大学 雅楽部の皆さん



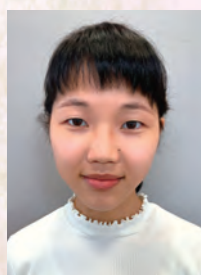
千嶋 広恵
(東京都)



岩田 奈子
(愛知県)



小林 明希子
(四日市)



後藤 万由子
(菰野町)

内侍
ないし



三木 浩江
(朝日町)

女別当
にょべつとう



山井 莉菜
(愛知県)



村咲 るな
(東京都)



平田 麻由
(津市)

命婦
みょうぶ



坂口 陽菜
(玉城町)



吉川 佳那
(鳥羽市)

采女
うねめ



小川 伊久
(伊勢市)

検非違使
けびいし



前田 真彦
(東京都)

齋宮十二司官人



齋藤 彩希
(埼玉県)



坂谷 有絵
(伊勢市)



風間 麗子
(埼玉県)

女孺
にょじゅ



畑中 秀幸
(津市)



桐山 卓也
(津市)



山本 泰広
(松阪市)



齋藤 健介
(埼玉県)

風流傘
ふうりゅうがさ

第三十九回 齋王まつりを迎えて

三年ぶりに開催できることを実行委員一同大変うれしいという思いと二年開催していないという事が、これほどまでに混乱を招くものなのかと考えさせられました。

コロナ禍での開催ですので、安全な「齋王まつり」とはどうするか？ 連絡・確認事項、許可申請など「これでいいのか？ 何か抜けてはいないか？ 大丈夫だろうか？」ライン、メールなどで各実行委員と確認の毎日。

何とか「第三十九回齋王まつり」が開催できるところまで来ました。

配役選考会も前々回と同様に群行出演者の皆さんから動画を送っていただき、その動画をもとに選考させていただきました。

第三十七代 齋王には二十歳の大学生、菅尾夏希さんが選ばれ、華々しく「齋王まつり」が開催されます。また「齋王まつり」の内容が変更されました。

開催場所も齋宮駅北側の「上園芝生広場」さいくう平安の杜」会場となり、開催日も六月五日の一日開催とし、今までのまつりを凝縮したコンパクトな内容になってリニューアルいたしました。

令和四年「第三十九回齋王まつり」をご期待ください。

齋王まつり実行委員会 広報班

6/5(日)
(雨天中止)

出発式・禊の儀

13時30分～14時00分
上園芝生広場会場

齋王群行

14時00分～14時30分
上園芝生広場会場から
さいくう平安の社会場まで

社頭の儀

14時30分～15時00分
さいくう平安の社会場

ステージイベント

10時00分～13時00分
さいくう平安の社会場

ゲスト

めい姫&ソルブラ &
チエリーボンボン & Mebae
あつとえりか トーク and ライブ

フード&マルシェ

10時00分～15時00分
上園芝生広場会場・
御館広場周辺

もくじ

齋王まつり配役	2
齋王群行をめぐることども	4
いつきのみや地域交流センター	7
齋宮跡の発掘調査	8
あつとえりか紹介	10
衣裳提供 竹輝銅庵	11
齋王一覧	12
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	13
特別協賛紹介	14
群行衣裳	16
フォトコンテスト	18
齋王役を務めて	20



斎王群行をめぐることごとく

斎宮歴史博物館

榎村 寛之

群れて行く、と書いて群行といいます。斎王が都から伊勢斎宮への旅自体を儀式ととらえ、こういう言いかたをするわけです。斎王まつりの行列がこの斎王群行を模したものだということとはご存じの方も多いかと思います。しかしこの言葉は正式な法制用語ではなく、たとえば斎宮の決まり事を詳細にまとめた十世紀の法律細則書『延喜式』の斎宮関係の条、通称『延喜斎宮式』にも出てきません。そんな群行のことどもについて少しお話をしてみましよう。

一、群行に参加する人数について

この言葉は貴族の日記や、有職故実書、つまり儀式についての手引書の中で使われるようになったものです。参加者ではなく、記録した人や仕切る人の印象からできたことばだといえるでしょう。まさに人が、アリの引越しのようにならわらと都を出ていく行列、それが群行なのです。

斎王の行列は伊勢への旅の他にもあります。

たとえば斎王は伊勢神宮に年間三回、九月神嘗祭と六月・十二月の月次祭の時に行列しますが、この行列を群行ということはありません。また、京の賀茂神社に仕えた賀茂斎王、通称斎院も、賀茂祭、つまり今の葵祭の時に普段暮らしている斎院から下鴨、上賀茂社へと行列し、それは賀茂祭の行列の中心ともなるものですが、これも群行とはいいません。ではこれらの行列と群行はどう違うのでしょうか。

群行はとにかく人が多く、規制も厳しいのです。まず群行に先立ち、朱雀門の前などで臨時の大祓が行われます。さらに群行のある九月は忌月とされ、北辰（北極星）を祀る祭祀（現世利益が多い）や、改葬などは沿道諸国では禁止されます。斎王の旅は厳肅な雰囲気の中で進められており、長暦二年（一〇三八）の群行の詳細な旅日記が残されている藤原資房の日記『春記』（旧田中家所蔵本）でも、地域の人々との触れ合いなどはほとんど書かれていないのです。そして斎王の旅は、たんに斎王を送るだけではありませんでした。

『延喜斎宮式』によると、斎宮で月料、つまり月給をもらう人たちは男女あわせて500人を超えています。そのすべてが都から伊勢にやってくるわけではないでしょうが、忘れてはいけないのは、二年余り無住だった斎宮に着いた斎王は、翌日から普通に暮らしていけないと、群行した意味がないということです。つまり斎王が到着する以前に、斎王の生活を支える人々や生活調度は整えられていないといけないわけで、その中には当然都から運ばれた物も沢山あったはずなのです。それらを誰が運んでいたのか、斎王群行の月には、もつと沢山の人が都から伊勢に向かっていたと考えられます。

古代最後の官撰、つまり国家が編纂した歴史書『日本三代実録』は、九世紀後半の社会や政治を知る重要な資料です。その元慶五年（八八一）正月十九日条には、陽成天皇の時代の斎王で、異母姉妹の識子内親王の帰京についての記事があります。この時は父の清和上皇が亡くなった帰京なので、伊賀から大和を通りますが、その時にも、斎王に直接関わらない下働



きの人たちなどは行きと同じ近江路を通ることになっていました。そして齋王の陪従(随行者)は二一九人、さらに河陽宮(今の京都府大山崎町)から難波津(大阪市)に船で向かい、陸路で戻る時には一〇〇人と記録されています。帰京の時でもこのくらいいたわけですから、群行に関わる人たちが五〇〇人というのもあながち誇大とはいえないでしょう。

まさに齋王一人のために大量の人や物が動く大移動、それが齋王の群行、群れて行くと呼ばれた旅の有様だったのです。

二、群行と牛車

さて、『源氏物語』「賢木」の巻には、先の皇太子の娘(光源氏の恋人、六条御息所が母親)の女王が齋王となり、都を離れる日の出来事が記されています。その中には

「(齋王が)退出されるのを、お待ち申し上げようとして、八省院(朝堂院のこと)に並べ立てた供奉の車から、のぞいてる衣の袖口や色合いも、めずらしい趣で、奥ゆかしい様子だから、殿上人(高級貴族)たちも、めいめい別れを惜しんでいる人が多い。(現代語訳は、玉上琢彌『源氏物語評釈』角川書店 一九六五年 より)」という一節があり、齋王が「別れの小櫛」を天皇から受ける儀式(映像展示『齋王群行』をこ

覧ください)の時に、その南側にある広い朝堂院の庭中に女房達の牛車が待機している様子が記されているのですが、この描写についてかつてさんざん悩んだことがあります。それは博物館開館時、展示室Iにある齋王群行模型を創った時のことです。もともと齋王群行列がどういう構成だったかを書いた資料はありません。そこで『延喜齋宮式』に見られる参加者と『儀式』という資料に記された九世紀の賀茂祭行列とを組み合わせて、問題のない範囲でラフスケッチを描いたのですが、引かなかったのが牛車の事でした。

この時代に女性が移動をする時はたしかに牛車を使います。だから、齋王(賀茂齋院)が参加する賀茂祭の行列には齋王や供奉(随行)の女官が乗る牛車が出ました。しかし牛車は本来京内のような広い道を通るための道具で、鈴鹿峠のようなおそらく細く険しい山道を果たして通れるのか。少なくとも四人は乗れる、つまり現在の軽乗用車以上の大きさがあったと考えられる牛車が、今でも二車線道路の鈴鹿峠を果たして越えられたのでしょうか、あるいは当時の鈴鹿越の道はもっと広かったのでしょうか。しかしこの『源氏物語』の一節を見つけた出てきたことで、牛車のミニチュアを群行模型の中に入れるという理屈はつきまりました。とはいえ、牛車の問題はずっと引っかかっていたのです。

そもそも源氏物語が書かれた一条天皇の時代には、天皇から見ると従姉妹にあたる恭子女王という齋王が二〇年以上も伊勢にいたのですが、彼女が伊勢に向かったのはおそらく紫式部が宮仕えする以前、つまり紫式部は、この場面を宮中で齋王の旅立ちの儀式の体験から書いているわけではないのです。そしてこの齋王の旅立ちには、齋王の母の六条御息所が同行しており、彼女は当代屈指の文化人ということになっていきますから、この車は御息所に仕える女房たちの車だった可能性も高く、通常の齋王群行とは同列ではない、ということも考えられたのです。

この疑問を氷解させたのは、その数年後に活字化された『春記』(田中家本)で、そこには女房たちに網代車が五両用意されたことが明記されていたのです。しかしこれで問題解決とは行きませんでした。続けて「人々は、狭い路を牛車で行くのはいかがなものだろうか、と云っている(訳は榎村『春記』長暦二年九月、良子内親王群行記事原文と現代語訳)『伊勢齋宮の歴史と文化』所収 塙書房 二〇〇九年)」と記されているからです。

そしてこの危惧は、鈴鹿峠を越える時に的の申しました。鈴鹿の山道は険しいこと極まりなく、棧(さん、横板を何枚も渡して広げた道)があるが、それでも所々で下馬をしたとあります。



そして、女房の車は、隨身ずいじん（お供の武士）がいるがどうしようもない、とも記されています。やはり牛車で峠を越えるのは大変な難事だったのです。

鈴鹿の山道の入り口に着いたのは巳の刻のはじめ（午前十時ごろ）、女房達の車が峠を越えて、今の亀山市関町にあった鈴鹿頓宮に着いたのは午後十時頃だったといえますから、いかに大変な一日だったかがうかがえます。しかし平安時代の女性たちは、この峠を越えていたのです。女房の中には下車して馬で来た者もいたといえます。齋王の従者には馬も与えられており、馬を使える女性たちもいたのです。なんとという強さ。御簾の奥でひっそりと気楽に暮らす女房たちは、実はこれくらい生命力にあふれた人たちだったのです。

三、鈴鹿峠を越えること

このように、齋王群行の最大の難所は鈴鹿峠でした。そのためか、齋王群行にかかわる歌にも、鈴鹿山を詠み込んだものが少なからず見られます。

六条御息所が娘とともに齋宮に下ったというエピソードの典拠になったと考え

られている、元齋王で村上天皇の女御（妃）になった齋宮女御あきみ子女王が、貞元二年（九七七）に娘の齋王規子内親王の群行を追って鈴鹿峠を越えた時には、こんなやり取りがありました。

世にふればまたも越えけり鈴鹿山
昔の今になるにやあるらん

（齋宮女御集）

と、規子内親王の返歌

鈴鹿山しづのをだまきもるともに
ふるにはまさることなかりけり

（同）

という有名な贈答歌があります。

この歌は、『伊勢物語』に見られるいにしえのしづのをだまきくりかへし
昔を今になすよしもがな

という歌を贈答歌ともに踏まえていて、『伊勢物語』といえは齋宮の物語、と当時見なされていたことをうかがわせ興味深いものなのですが、ここでは「ふれば」「ふる」という言葉に注意してみたいと思います。

この「ふる」は、鈴を「振る」にかけています。「鈴」鹿山といえは「振る」を連想し、「振る」は「旧る（年月を経る）」を連想する言葉だったのです。そして鈴にはもう一つ「鳴る」という属性

があります。これは「成る」「為る」つまり達成されるという意味にもつながるのです。

齋宮女御の夫であった村上天皇が、娘の齋王楽子内親王の群行の際には、こんな歌に硯を添えて旅に行く娘に送っています。

思ふことなるといふなる鈴鹿山
越えてうれしき境とぞきく

（拾遺和歌集）

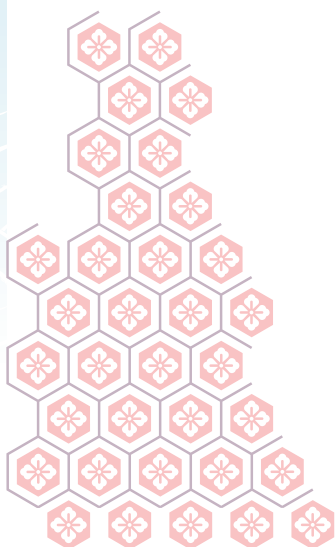
鈴鹿山は、天皇の願い（思ふこと）が達成される（なる）山であり、その境を越えることが、齋王の大きな任務だったことがうかがえます。

鈴鹿といえは、平安時代には、山賊や鬼女の伝説で知られた所です。そんな難所を越えた先にあるのが、伊勢の国なのです。

おわりに 群行を寿ぐ相撲人

多く、知りたいことはたくさん残っています。さて、最後に、新しい手がかりになるかもしれないエピソードを一つ。良子内親王の群行の記録には、地域の人々との触れ合いがほとんど記されていませんが、一つだけ例外がありました。壺志頓宮（現在）の松阪市内に、「相撲人頼経」という人物が色々な手土産を携えて訪ねてきたというのです。相撲人というのは、宮中で行われる相撲節会にその国の代表として参加する専門の人、つまりプロのお相撲さんで、最も強い「最手」と呼ばれた人などは抜擢されて貴族の従者になることもありました。もともと相撲とは邪を祓う儀式の一つなので、齋王の旅を祝福に現れても歓迎されたのでしょう。多くの場合、相撲人は地域の有力者なので、これは今の松阪市周辺の有力者と齋王の関係をうかがわせる興味深い資料でもあるのです。

このように齋王の群行については、この三十年ほどの間に、その内容やその背景など色々なことが分かっても来ています。齋宮歴史博物館の映像展示『齋王群行』はその成果の結集とも言うべきものです。しかしまだまだ分からないことも

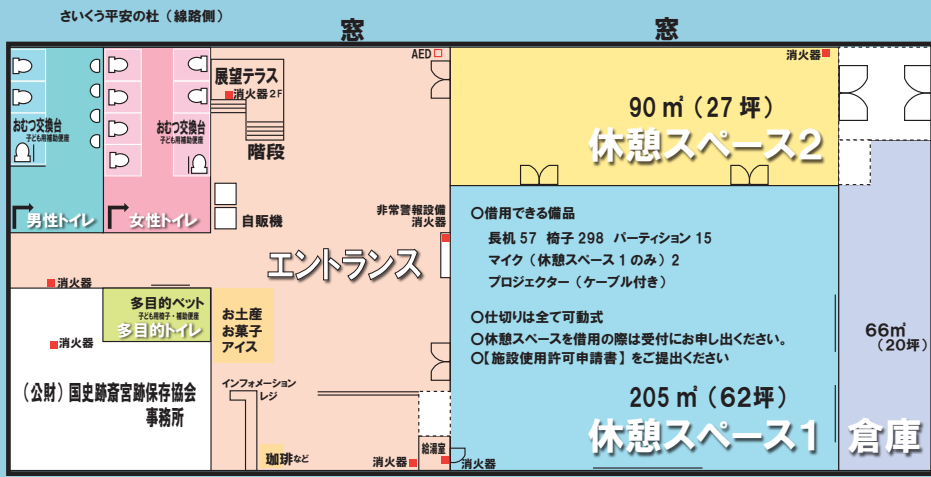


いつきのみや地域交流センターの紹介

『いつきのみや地域交流センター』と少し長い名前のこの施設。どのような施設でしょうか？
今回はいつきのみや地域交流センターについてご紹介いたします。

近鉄斎宮駅から歩いて約5分のところに平成29年4月にオープンしました。

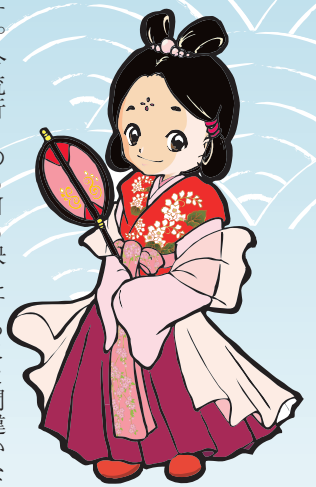
『いつきのみや地域交流センター』は外観が白で統一されており、2階建ての施設です。有料の



いつきのみや地域交流センター

貸しスペースがあり、会議や講演会だけでなく、様々な用途で使用できます。これまでに同窓会・囲碁やかるた・ダンス・コンサートなどでもご利用いただいています。

「休憩スペース1」「休憩スペース2」「エントランス」とあります。スペース1は正面に木がふんだんに使われ、広さは62坪(205㎡)と広く椅子や机を使用してゆったりと席を設けると約100名様収容できます。プロジェクター用のスクリーンや音響・マイク・給湯室も完備しております。スペース2は南向きで中庭への出入りができる窓があり、とても明るく開放的です。こちらにはスクリーン等はありませんが、長方形型で広さは27坪(90㎡)あり、こちらは約50名様収容可能です。休憩スペース1と2、エントランスとを仕切っているのは可動式のパーティションで、大きなイベントの際には全て取り外して使用できます。休憩スペース1と2で椅子のみの利用で最大300名様収容できます。南向きの暖かな日が差し込むエントランスでは、斎王まつりで実際に斎王役が乗る「葱華輦」の展示を行っており、間近にご覧いただけます。おまつりの日は残念ながらご覧いただけませんので、後日ご来館ください。またオリジナル商品やお菓子などの販売も行っております。持ち込み弁当など持参し休憩もできます。また、奈良時代の天平衣装をイメージした装束の体験は服の上からカンタンに着ることができ、女性は全体的に明るい色目の装束に、かつらや小物もあります。男性は、帽子にしゃくもあ



ります。今流行りのSNS映えること間違いなし！お子さまは3歳くらいから着付けすることができますので、ぜひご家族やお友達同士で体験してみてください。1時間自由に散策でき、大人1000円子ども500円と気軽に体験できるのもうれしいところ。着て、さいくう平安の杜やいつきのみや歴史体験館で写真を撮りながら、コスプレを楽しんでみるのも良いかもしれませんね。

2階には展望テラスがあり、斎宮跡の景色を見渡せます。階段が苦手な方も1階のエントランスから同様な景色が楽しめます。南には近鉄線があり、電車が大好きなお子様も安心してご覧になれます。

少し『いつきのみや地域交流センター』のことがお分かりいただけたかと思えます。

それでは、一歩外へ出てみましょう。玄関前に広がるのは芝生広場と石畳の広場です。広場には車両は搬入時のみ進入でき、一般車両は駐車スペースまでとし広場には入れませんので、安心してウォーキングや運動をしたり、小さなお子様を歩かせたりボールなどで遊んだりして広場を自由にご利用いただけます。ひと休憩できるあずまやもあって嬉しい限りです。

何かで使いたいなど感じましたら、気軽に受付にてお尋ねください。またみなさまの交流の場として、イベント等も企画し、より使いやすい施設を目指していきます。どうぞよろしく願いたします。

いつきのみや地域交流センター

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日、年末年始12/29~1/3)

管理:公益財団法人 国史跡斎宮跡保存協会

住所:〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2811番地

TEL:0596-63-5315

E-mail:center@itukinomiya.jp

ホームページ:https://www.itukinomiya.com



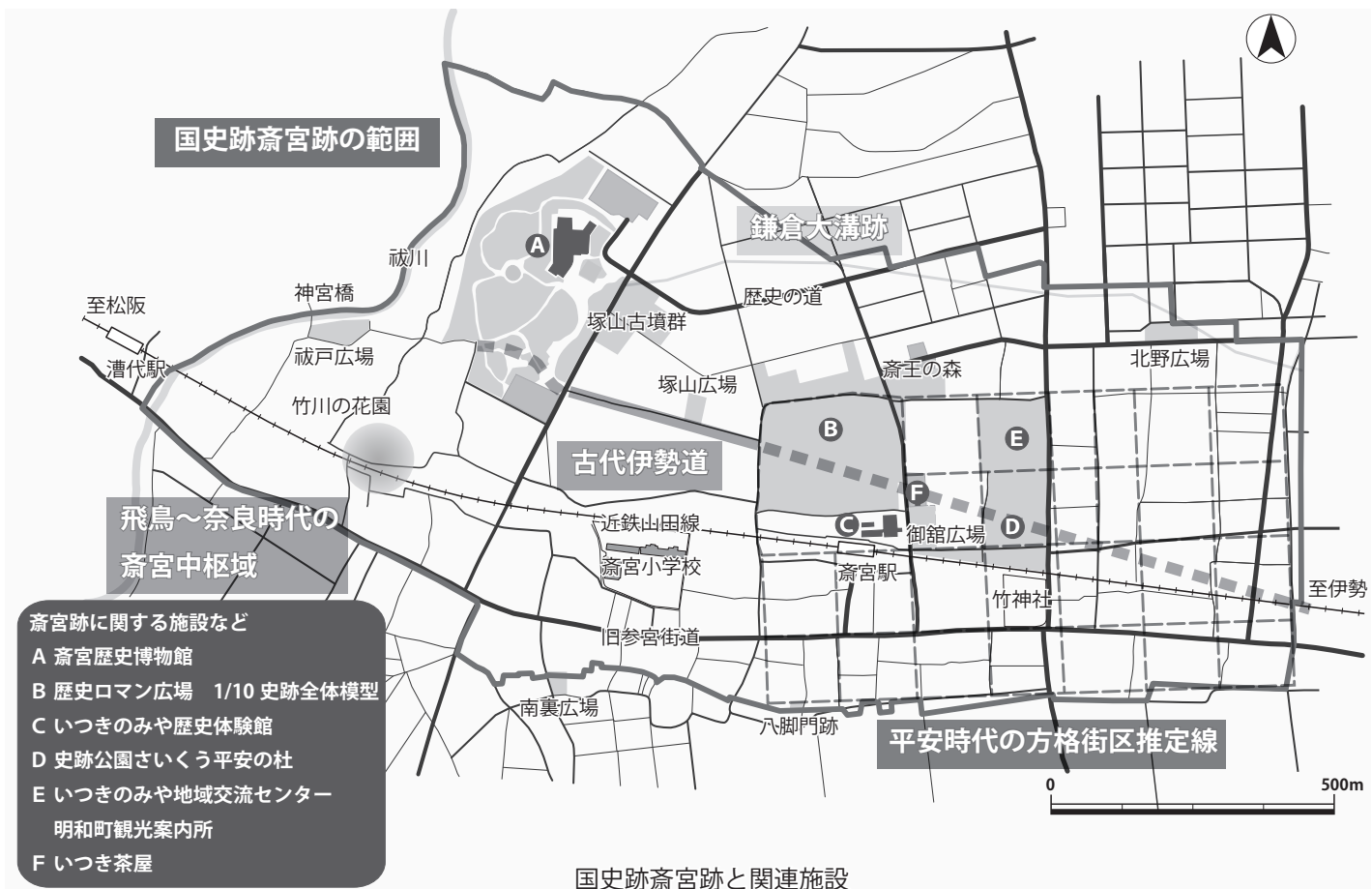
国史跡齋宮跡の発掘調査

～飛鳥時代齋宮の実態解明へ～

国史跡齋宮跡では、齋宮歴史博物館が中心となり、地域の皆さまや明和町の協力のもと、一九七〇年から実態解明のための発掘調査を続けてきました。特に「さいくう平安の杜」の周辺での発掘調査により、奈良時代末から平安時代初め（八世紀末～九世紀前半）にかけての様子が鮮明なものとなりました。当時の齋宮には、京都の平安京のような都と同じ設計方法で、東海地方最大級の古代都市が営まれていたことが明らかになっています。

その一方で、齋宮が明和町の地

に置かれたとされる飛鳥時代から奈良時代（七世紀末～八世紀後半）の実態はあまりよくわかりませんでした。そこで、齋宮歴史博物館は平成二九年度から令和三年度（第一九二・一九三・一九五・一九七・一九九・二〇〇次調査）にかけて、飛鳥時代の齋宮中枢域と推定される場所（以下、中枢域）について、重点的に調査を進めてきました。飛鳥時代の中枢域は、史跡西部の中垣内地区にあります（当館から南西へ七〇〇m程の地点）。立地環境は、段丘縁辺の史跡内で最も高い標高約一四m地点



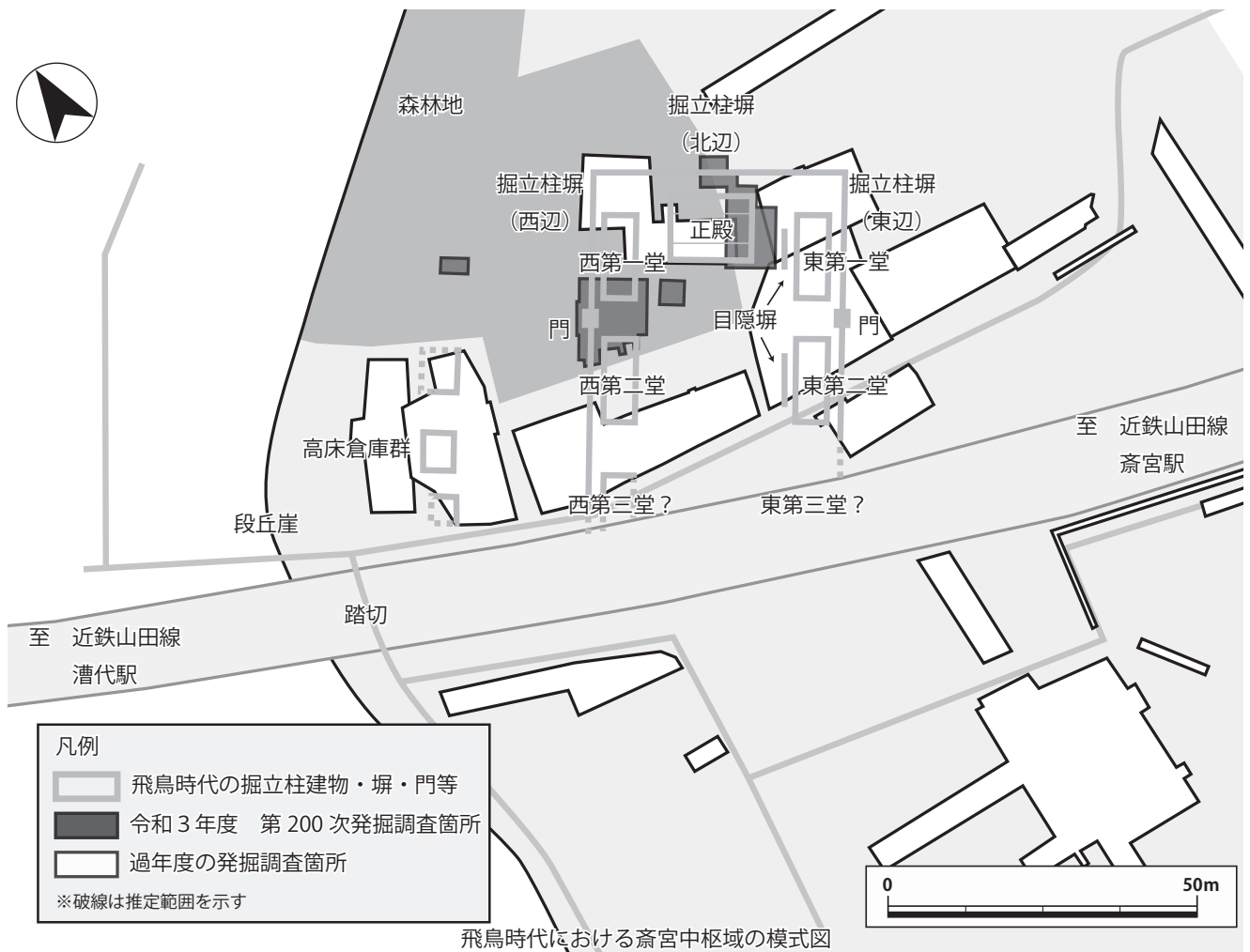
に位置しており、調査地の直ぐ西側は、段丘崖に面しています。周囲は森林地（若宮八幡神社旧境内地）や畑地等が広がります。

令和3年度までの発掘調査により、掘立柱塀に囲まれた区画と、その内・外部の建物等の構造や規模が判明しました。掘立柱塀の区画は、短辺（東西）が約四〇mで、長辺（南北）が約五五m以上の長方形になるとみられ、東・西辺の塀にはそれぞれ門が取り付きます。

掘立柱塀の区画内部は、北側中央に南北二面に庇が付く正殿が配置されます。その両脇には、それぞれ南北棟の掘立柱建物が二〜三棟並びます。これらの建物の内、東側の「東第一堂」・「東第二堂」、西側の「西第一堂」・「西第二堂」については、規模と構造がはっきりしましたが、東西第三堂の詳細については、規模と構造がはっきりしませんが、東西第三堂の詳

細については今後の課題と言えます。正殿の前面空間は、建物が配置されず、広場のような空地となっており、儀式空間として利用されたことも考えられます。

区画外部の西側にあたる範囲では、総柱建物の高床倉庫群が見つかっています。これらの塀や建物の軸は、真北から東側に約三三度の方位を向く特徴があり、地形に沿って建てられたと考えられます。



FM三重でおなじみの あつとえりか



シンガーソングライター「あつ」

三重県出身

・ギター弾き語り女性シンガーソングライター。

2006年フジテレビ系「めっちゃ×2イケてるッ!」エンディングテーマ「笑学校(しょうがっこう)」でメジャーデビュー!メッセージソングを中心に繰り広げるライブは、学校や研修会でのトーク&ライブとしても好評!また三重県交通安全キャンペーンソングをはじめ、三重県津市のご当地グルメ「津ぎょうざ」PRソングなど、様々な企業・団体のイメージソングやキャンペーンソング、小学校の校歌(作詞)などの制作も手掛ける!

また、全国各地を歌い巡る一人旅で、120泊以上の車中泊を経験し、現在はキャンピングカーオーナー。

ソロキャンプもこなすアウトドア派。

「あつ」公式ホームページ <http://www.atunti.com/>

【レギュラー番組】

◆レディオキューブFM三重
イオンモール明和プレゼンツ
「あつとえりかとみんなのラジオ」メインパーソナリティー

◆ZTV(津ケーブルテレビ)
「ひるナマ」リポーター

多田 えりか 1.14生 O型

愛知県小牧市出身

学歴:同志社大学卒

資格:社会福祉士(特別養護老人ホームにて勤務経験)、アロマセラピー1級、食農3級

趣味:健康、美容、コスメ、ショッピング、カフェ、はにわ集め、ソウル・ファンク、こどもと遊ぶバラエティから社会派まで、素人さんから芸人さんまでどんなシチュエーションでもアドリブをきかせ、現場を明るく盛り上げます!

【最近の主な司会実績】

名古屋まつり 会場行事、旅まつり名古屋、につぼんど真ん中祭り、ふるさと全国県人会まつり、尾張名古屋の職人展、オールドヨタビッグホリデー、トヨタ白川郷自然学校10周年記念式典
中部電力×アピタ・ピアゴ IHクッキングショー
食の健康&ウォーキングイベント他
ビジネス・サミット~東海・北陸「うまいもの」大商談会~
スギ薬局グループ 健康・キレイ応援フェスタ
ベトナムフェスティバル in愛知
あいちグルメまるごと食べ隊フェスタ、愛知県警ふれあいフェスタ
衆議院議員総選挙、愛知県知事選挙、名古屋市長選挙 名古屋選挙フェスタ 各メインイベント
こころの健康フェスタなごや
KIRIN お客様感謝イベント(山口智充トークショー)in エアポートウォーク名古屋

衣装提供

貴重な平安装束を竹輝銅庵様より
寄贈していただきました。

御正服 (朱色セット2着)

伊勢国司・斎宮寮長官役の衣装として着用します。
斎王群行の到着時に、社頭の儀にて斎王様ご一行をお出迎え致します。

舞人役衣裳 (黄色セット3着、ピンク色セット3着)

まつりでは、時には進行役など多彩な役割を務めていただいております。



御正服



舞人役衣裳

ちっきどうあん
喫茶 竹輝銅庵
喫軽食

【住所】 松阪市駅部田町1056-5 (R160沿)
【電話】 0598-23-2340
【営業時間】 8:30~17:30
【定休日】 月曜日
【URL】 <http://www.matsuguyuyaki.jp/>



図書の紹介

私達の「齋宮」について
より多くを知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例
○ふるさと会館（図書館）で貸出可 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として	谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆ 榎村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆
郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房○○ 明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』○○ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』○○ 『同Ⅱ』◇
齋王一行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社○○ 村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆ 内田康夫著『齋王の葬列』角川書店◎◇ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇ 『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇
「齋王」を小説で読んでみたい方に	津田由伎子著『齋王』学生社○○◇ 山中智恵子著『齋宮女御徽子女王―歌と生涯―』大和書房◎◇ 『齋宮志』大和書房◎◇ 『続齋宮志』砂子屋書房◎◇ 『齋宮劄記』砂子屋書房◎◇ 所京子著『齋王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 『齋王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第39回（令和4年度）齋王まつり実行委員会組織体制

（敬称略・順不同）◎班長 ○副班長

本部	代表 森田 均 副代表 森下 清 本部役員 土井 祐治 東谷 泰介 事務局 観光協会	名誉会長（町長） 世古口 哲哉 顧問 西場 信行 辻 丈昭	濱井初男 森下 清	大西宏明 山川充造	伊豆千夜子 長岡成貢	西井 正
会計監事	徳田 均 久世 晃	相談役 辻 孝雄	橋本久雄	東谷泰明	新田一子	
任務分担の内容						
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スタンプラリー等 齋王市の実施 のぼり・看板計画実施 出発式・観覧場の片付け	◎早川潤一 ○北山房夫 田中真司 乾 健郎 高橋浩司	○市野秀世 小林順一 奥山幸洋 長岡 孝	○山中いづみ 辻 正 橋本久雄	竹内克巳 田端正俊 樋口文隆	辻 孝雄 岩本温行 下村幸一 18
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎森 菜津子 ○北川和樹	○江 京子	石田豊喜	澤 恒一	中瀬正実 6
着付班	着付け準備と後片付け	◎西宮幸代 ○衣斐喜代美 森下昌子 寺西照美 満尾 清佳	○菊矢照子 新谷千恵子 直井佳代 濱野 恵	○北山良子 森 洋子 高杉恵子	八田明美 中川啓子 新田 一子	富山正美 加藤早和美 下村亜都子 18
まつり会場班	前夜祭の実施 アトラクションの実施 社頭の儀の実施 群行の実施 出発式の実施 観の儀の実施 社頭の儀の実施	◎永井健太 （◎東谷泰介）兼務 ○野上但治 ○世古古典剛 永島せい子 石田真也 森川 航 佐々木久夫 和佐田道子	○北村哲也 ○中谷優太 中島 宏 辻 崇宏 前田 航 中川裕正 松本友輔	○浜口浩和 ○北岡 純 乾 秀治 北川修平 大和谷勇太 長谷川新	○関宮辰典 伊藤佳史 中井啓悟 井尻季幸 喜多由香子 石田藤生	○丸山浩紀 西道 涼 西岡 潤 仲 勇人 小林邦久 和佐田照夫 34
舞台設営班	舞台の設営及び片付け	◎関岡武夫 ○竹内和持 伊串金市	○西岡信行	秋山修一	笛川浩	岩佐康則 7
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理 苗村明利	※舞台制作作業は実行委員全員で行う 2			

特別協賛 300 〇

令和2年2月「第38回齋王まつり」を同年6月に予定し、下記4社様には特別協賛金をいただきました。第38回は中止となりましたので、第39回に感謝の意を込めてここに掲載させていただきます。

瀬古食品株式会社

夢の空間でお待ちしております。



The logo for DreamOcean features a large, stylized 'OO' symbol in a vibrant yellow color with a 3D effect. Below the symbol, the words 'DreamOcean' are written in a matching yellow, sans-serif font.

池田建設株式会社



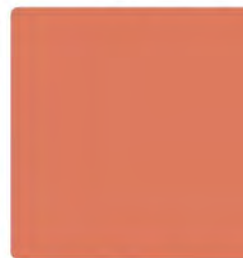
oh!!
one house.

人生をもっと楽しく!

LIFE IS BEAUTIFUL with oh!!one house.



株式会社小林農産

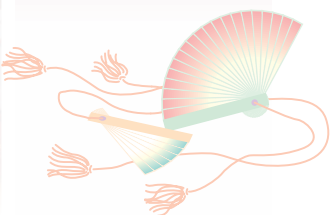


有限会社シンセイフーズ



地元の物を使用し、一度食べたらやみつき！お子様でも食べられる
もちりしっとりくせになる酒まんじゅう

群行衣裳



長奉送使【ちようぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（一〇三五）の『看督長見不注進状』（『平遣』五二九〜三七七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を懼伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御悩の時、五条の天神に看督長の鞆をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。

1. 冠かんむり
2. 褌はかま
3. 太ちぢ



- 1
- 2
- 3



齋宮十二司官人【さいくうじゅうにしかんじん】

齋宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に袿を重ね、打衣、表着の上に乗せる唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、袿、単となっています。唐衣は袿、衿合わせがなく、上からはおりません。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は碓で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袿は、内衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袿と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣



- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 垂髪 | 2. 唐衣 |
| 3. 表着 | 4. 打衣 |
| 5. 衣（袿）（枚数を重ねている） | |
| 6. 単 | 7. 長袴 |
| 8. 裳（全体） | |
| 9. 裳の小腰 | 10. 裳の引腰 |
| 11. 檜扇（相扇） | 12. 帖紙 |
| 13. 日陰の糸（玉かずら） | |
- ※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。

内侍または命婦【ないし または みょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や宣旨が、齋王の住むエリアで公的性情をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではなにかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゅ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますから、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたという事はなかったようです。



第38回斎王まつり 檜扇伝承式

令和2年9月20日



代々斎王さまは檜扇を伝承されてまいりました。

第39回 斎王まつり

08

第35代 橋本茉奈斎王から、第36代 梅田優歩斎王へ
檜扇が引き継がれました。

第39回斎王まつりでは、第36代 梅田斎王から
第37代 菅尾斎王に受け継がれます。



齋王フォトコンテスト



「令和の大来皇女」 明和町 井上 清一

明和町長賞



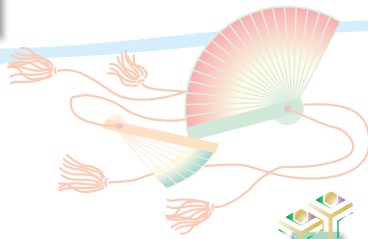
「出発の前夜」 明和町 出口 美智子

齋王賞



「葱華輦との旅」 明和町 太田 昇

明和町教育長賞



「時代は次代へ」 津市 川口 瑞貴

明和町議会議長賞

「やんごとなき出立に向けて」 伊勢市 井村 義次



齋宮歴史博物館館長賞

齋王まつりフォトコンテスト作品募集

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・令和4年7月15日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募用紙を作品裏面に貼付、郵送または齋王まつり事務局所受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募用紙の各項目に楷書で記入し、題名、お名前にはかならずフリガナをつけてください。(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

・入賞は、10賞(齋王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は齋王まつり実行委員会にて選考いたします。

◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆応募先

齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-1032-1

三重県多気郡明和町齋宮2811番地

齋王まつり実行委員会事務局

電話 059615210054

※ご記入いただいた個人情報は、フォトコンテストに関する連絡のために使用させていただきます。
※お預かりした個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理します。



第36代齋王役
梅田 優歩

齋王役を務めて

大変な世情の中、みなさまに支えていただき、二年間第三十六代齋王役をつとめさせていただきました。みなさまとの華やかな齋王群行をすることは叶いませんでしたが、実行委員会の方々のご配慮により檜扇伝承式を実施できましたこと、心から感謝申し上げます。

昨今の状況下であるからこそ、齋宮の歴史と齋王まつりに関わるみなさまの強い思いを感じました。その思いを胸に抱き、私自身も次につないでいくことを意識してつとめてきました。その中で歴史や文化は時には形を変えながら守られ、今に伝わっているということを改めて実感いたしました。

齋王役として齋宮歴史博物館さんとのトークイベントや動画作成など、地域の歴史を伝えるお手伝いもでき、歴史を学ぶ身としても大変貴重な経験をさせていただいたと思っております。

今後とも齋宮に新たな歴史が紡がれていくこと楽しみに見守らせていただきます。齋王まつりの更なる発展とみなさまの幸せを祈念しております。



葵華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

平和と安寧の日々を祈る

齋王まつり実行委員会代表 森田 均

コロナ過の中、皆様におかれましては、大変なご苦労をされている事と思います。

又、感染された方々には1日も早い御快復をお祈り申し上げます。

さて、3年ぶりに齋王まつりを開催致します。

しかしながら、今回はこの様な状況ですので規模を縮小した形で実施させて頂きます。

前夜祭は行わず1日のみの開催とし、上園芝生広場で禊の儀 出発式 齋王群行と進み、平安の杜での社頭の儀と順をおって執り行います。

ステージイベントや販売ブースも予定しております。

サブタイトルは、新型コロナウイルスの蔓延 国際情勢の悪化等による政情不安が一日も早く解消し、正常な日常が戻ることを願い(平和と安寧の日々を祈る)と致しました。また、できる限りの感染対策を実施します。

ご来場の皆様におかれましては御協力をお願いいたします。

短い時間ではありますが、久しぶりの齋王まつりを十分楽しんでいただき、これからもご支援賜りますようお願いいたします。

主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町議会、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会
中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学
協力◎(有)レイルロード、北村音響
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274

<http://saioh.jp>

定価100円